

短 報

薬剤カートの導入

高橋 雄平, 下田 聖史, 多田 幸生,
小野寺 健治, 中村 美代子

八戸赤十字病院 5C 病棟

目 的

薬剤カートを導入し, ①精神科病棟での向精神病薬の管理, ②看護師の薬剤の整理・準備に係る時間の短縮, ③薬剤のヒヤリ・ハットの減少ができるようにする。

改善内容

精神科病棟では薬剤カートを導入する前は, 入院時に看護室内の棚に患者個人の薬箱を作り管理をしていた。薬箱の中に当科薬・他院薬・他科薬と分け, ビニールケースに入れ, そのビニールケースから各勤務帯で薬剤を取り出し, 準備, 与薬していた。このため, 看護師が薬剤を確認し準備するのに多くの時間を割いていた。入院時や処方日には, 薬剤師が確認した薬剤をさらに看護師が確認し準備するという重複した作業もあった。

そこで, 病棟の薬剤カート担当看護師 3 名と病棟担当薬剤師とが, 薬剤の整理・確認時間の短縮と薬剤のヒヤリ・ハットを減らすという医療安全の視点から検討し, 薬剤カートを導入することとした。

薬剤カートを準備し, 火・木曜日に 2 名の医師が回診後に当科薬を処方し, 水・金曜日の当科薬払い出し日に薬剤部で薬剤カートに 1 週間分の薬剤を入れることとした。処方内容については, 処方箋控でまとめて確認することにした。各勤務帯の看護師は, 処方箋控と薬剤カート内

の薬剤を照合し最終確認を行うことにした。他院薬・他科薬については, 看護師が当科薬処方日と合わせて整理・確認している。薬剤の整理・準備以外の時間は, 薬剤カートに施錠して管理することとした。

なお, 倫理的な配慮としては, 医師・薬剤師・看護師に学術集会で発表する旨を説明し同意を得ることとした。

結 果

向精神薬については, 薬剤カート導入によりシャッターを下げ施錠するだけとなり, 管理がしやすくなった。当科薬の整理・準備を薬剤師が行うことで, 看護師の薬剤にかかわる時間の短縮につながった。ヒヤリ・ハットレポートは薬剤カート導入前の平成 26 年は 34 件であり, 導入後の平成 27 年は 17 件であった。

考 察

当科薬の処方日を水・金曜日に統一したことで, 薬剤の整理・準備の作業効率が良くなった。当科薬・他院薬・他科薬について, 処方毎に分けて管理していた処方箋控を 1 つにまとめたことにより, 服用している薬の確認がしやすくなった。また, 薬剤師が当科薬の整理・準備を行い, 看護師が他院薬・他科薬を入れることで, 一度に与薬する薬剤が明確になった。

今後の課題

現在, 薬剤師が担当しているのは, 薬剤カートに当科薬のみを入れることであるが, 当科薬以外の他院薬・他科薬についても拡大していき

たい. さらに, 薬剤カートの導入の他には, 当科薬・他科薬・他院薬を含めて1包化することや, 患者が退院した後も間違いずに自己管理ができるように入院中から患者に合わせた薬剤管理方法を考える必要がある.